

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 平成30年12月 8日
(74号)

中之島こゝろ

[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 學塾・中之島事務局

人間学講座
第78講

「岡 潔博士と日本の情緒」

本地茂典 先生



■ 岡 潔先生の功績

私が会長を務める岡潔数学賞 AVEでは、博士を検証し、またおもしろ算数教室として生徒・学生たち、また大人に対しても、身近にあるのに嫌われがちな数学のおもしろさを伝え続けています。

岡先生は、一九〇一年生まれ、まさに二十世紀そのまま生きた大数学者です。数学者には、①問題を発掘(提起)する人②問題を解決する人③難問を解く過程で概念を見出す人の三つのタイプがあります。岡先生は②の問題を解決するタイプ。すばらしい概念も生み出した③のタイプの学者でもあります。先生は多変数函数論の難問を一人で解き明かされました。函数論の基礎となるのは複素数ですが、これはある数字を二回かけたらマイナスになる特別な数字のことです。これは見えない世界です。数学者はこの見えない世界を見えるように、分かるようにしていくのです。複素数は「i(あい)の2乗＝マイナス1」と表記します。これは世界共通語です。

岡先生の言葉に「人の中心は情緒である。情緒には民族の違いによっていろいろな色調のものがある。たとえば春の野にさまざまな色どりの草花があるようなものである。」とあります。今の教育の中に、子どもが花を見て「きれいだな」と思う心が育つことへの願いがあるのだろうか、と警鐘を鳴らしているのではと感じます。「数学とはどのようなものか」というと自らの情緒を外に表現することによって作り出す学問芸術の一つであって、知性の文字板に、欧米人が数学と呼んでいる形式に表現するものである」と先生は記しておら

れます。

■ ミウラ折の美しさ

ミウラ折とは東京大学の三浦先生が考案された折りたたみ方です。地図やさまざまな商品、世界最先端の人工衛星にも用いられております。このように数学は生活に密着してあらゆるところで役立つているのです。

ミウラ折は人工衛星の太陽パネルの展開方法を開発する過程で生み出されました。破壊されても力が分散するため、なお強い性質を持っています。その特徴は、左右に引つ張れば一瞬にして広がり、畳むのもあつという間にできます。この技術は「折り紙文化」を持つ日本ならではの発想であるといえます。精密に設計された、無駄のない美しさがそこにあると言われております。

■ 数学は生命の燃焼

考えるとは心に響くことです。「考える」行為の一つ手前は「思い描く」。思い描いたときに「この調子で思いを続けていこう」とすることが「考えること」です。論理とは一つ一つ体系だてること。それを数学でいえば「公式になる」ということです。学校では公式は覚えるものであり、公式にあてはめれば「考えていない」ということです。つまりは「論理とは考えないためにある」です。最近ではその思いに行きつき、子どもたちには「公式を覚えるように」とあまり言わなくなりました。



も言われたそうです。そして凄みのある先生だったとのことでした。

なにかに行き着いた人とはそういう空気を持つている。情緒とは一つの空気、人間の中の空気の作用ではないか。それは人それぞれにある。子どもに情緒という教育はしんどい。なぜなら、子どもに情操教育という躰ができていない。自分を作らせるということが大切だと思っています。

先生の生涯を原作としたテレビドラマの冒頭で、こんなセリフがありました。「すみれはただすみれのように咲けばいいじゃないか」と。すみれにある個性をどうだこうだと言ってはいけません。自分の存在を外側から規定しようとするのではなく、内側から規定しようとするアプローチです。「すみれとして精一杯咲けばいい、ただそれだけだよ」ということが印象に残りました。

また「ただ数学を学ぶ喜びを食べて生きているだけである」も先生の言葉です。先生は人から理解されようなどとはこれっぽっちも考えず、ただ自分の情熱を数学にぶつけて生きたように思います。社会に迎合することなく、自分自身の情熱を貫いた人間岡潔に学ぶことができればと思っています。

文化勲章受賞の際に「数学とはどういう学問ですか」と天皇陛下下のご質問を受け、岡先生は「数学は生命の燃焼です」と答えられました。この言葉には、それくらい何かに懸けたいと、私自身も気持ちが入ります。数学に限らず、なんでもよい一生懸命やつていくものを早く見つけることでしょ。意味を求めて苦しくなる、外からの要求に答えてばかりだと、自分の中にある情熱の花、喜びの花という感覚もなくなってしまう。私も数学というものをおもしろおかしく「数学ってこんなものなんだよ」と生命を燃焼させていきたいと思っています。

(抄録 中川千都子)

《グループ討議》

□ 講師 木地茂典先生

「岡 潔先生と日本の情緒」

【Aグループ】

- ① 倫理とは、考えないためにある。
- ② 数学とは生命の燃焼です。
- ③ 複素数は愛(i)。

【Bグループ】

- ① 感じられる心を持つ。
- ② スミレはスミレのように咲けば良い
- ③ 数学は自らの情緒を外に表現することによって作り出す学問芸術。

【Cグループ】

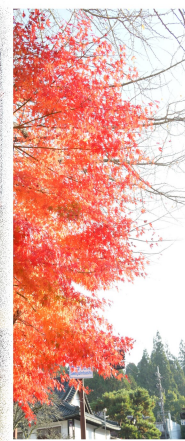
- ① 色々なものを見たときに感じられる心を持つ。
- ② 考えれば考えるほど、論理的になって公式がわかればもう考えなくてよい。
- ③ 数学は美しいものだ。

【Dグループ】

- ① 数学とは生命の燃焼です。
- ② 人間の中心は情緒である。
- ③ 見えないものを見つける＝最高の創造力



2018年11月29日 - 橋本市で幼少期を過ごした世界的数学者、岡潔の功績をたたえる顕彰碑が紀見峠に完成し、29日に除幕式が行われました。



人間学講座
第78

「なぜ少年院で人生が変わるのか」

武藤杜夫先生



■ 姿勢を正す

「姿勢を正してください」

少年院では、いつもこのような感じで私は授業を始めていました。「人の話を聞く姿勢は一人前であってほしい」と私は思っています。

私は沖縄少年院という法務省の施設で法務教官として働いていましたが、去年の三月で退職して、今は私の教え子である少年院の卒業生達と「日本みらいこども支援機構」を立ち上げ、子供達の支援を行っています。

少年院とは非行を犯した未成年者に改善更生のための教育が必要だと判断された場合に、家庭裁判所の決定に基づいて強制的に収容する国立の教育機関です。少年院は教育機関なんです。ここを誤解無いようにお願い致します。

そこで働いているのが法務教官といわれている人間です。法務教官は少年院に入ってきた子供達を改善更生に導くための専門的な教育を行う国家公務員です。

法務教官は「教師＋心理カウンセラー＋警察官」を3で割っていただと、イメージが湧き易いように思っています。

■ 魂の交流

少年院の教育の中身はどのようなものか。

まずは、生活指導。要は躰指導です。挨拶をする、掃

除をする、時間を守る、人の話を聴く、姿勢を正す。

こういった社会生活に必要なことをまずはきっちりとし身に付けさせていきます。そして、職業指導。就労に必要な資格も取らせていきます。そして、教科指導。

小学校低学年レベルから丁寧に教えていきます。そして、体育指導。徹底的に体を鍛えます。

私自身が最も大切にしていたことは、法務教官と子供達の「魂の交流」です。2時間一緒に生活しながら、私自身の全人格、人間力で子供達の魂を感化していきます。これが、法務教官の仕事だと思っています。

■ 命の大切さ

もし、私が皆様の命を百億円で譲って下さいとお願いをしたら、譲りますか？譲るわけじゃないですね。使うことが出来ないからです。

実は私達は一人一人が世界中から集めた宝物よりも重い「命」という名前前の宝物を持って生まれて来ているんです。

大切なお話をします。結局のところ、すべての非行とか犯罪と呼ばれるものは、人間の価値が分かってないから起こっていることなんです。

私達がどれほど素晴らしい宝物を持って、この世に生まれてきたかを全身全霊で子供達に教え込むべきなんです。このような当たり前のことを知らない子供達が多いんですよ。

では、どうしてこのようなことになってしまったのでしょうか。このような当たり前のことを分かったようで分からない大人が増えたからではないでしょうか。

■ 本当に必要なとされる人間

法務教官をやっていた頃から、このような講演会をやるときは前の日に子供達に宣言してから来るようにしていました。

「明日、〇〇中学校に行つて、〇〇中学校の先生方に講演会をやってくるぞ」と言ったら、「中学校も行っていないかった武藤先生が講演会をやっているんですか？ありえない！」と言って手を叩いて喜びます。

「そうだよ。中学校も行っていないかった僕が、中学校の先生方に講演会をやるんだよ。」

そんなの非行に走っていた中学校時代、夢にも思わなかったよ」「君達の人生はもっとすごい。君達が少年院を出て、社会復帰して更生して、社会の人達から本当に必要なとされる人間になったら、全国の大人達に講演会をやるようになるぞ。」

その時は君達が教壇に立つて講演するんだぞ」というと、目をキラキラさせて喜びます。

■ 先生から君達へ

人生が変わった瞬間があったと思う。人間が心から変わろうと思うのは、誰かから変われと押し付けられた時ではなく、尊敬出来る人と出逢って、その人の生きざまに憧れたり、好きな人が出来て、その人に見合う自分になりたいと決意した瞬間に、人生が変わり始めるのではないかな。

全国で魅力的な人に出会ったら必ず、「何故、あなたの人生が変わったんですか？」と聞くことにしている。そうすると、必ず、「誰々さんとお逢ったからだ」と答が返ってくる。

人生どこかに行くことは、たいしたことではない。人間は必ず死ぬ。だからこそ、どこに行くかではなく、誰と行くかなんだよ。出逢いを大切にね。どれだけ辛いことがあっても一人ぼっちにならないこと。誰かと繋がる勇気を持つんだ。



(抄録 加藤昌夫)

《グループ討議》

□ 講師 武藤杜夫先生

「なぜ少年院で人生が変わるのか」

【Aグループ】

- ① 子どもの可能性を信じる。
- ② 自分の信念に生きる。
- ③ 生きるために食べるが、食べるために生きるのではない。

【Bグループ】

- ① 人は命という宝物をもっている。
- ② 「生きろ!!」という励ましのことば。
- ③ 人は生まれながらの成功者

【Cグループ】

- ① 子どもの可能性を信じる。
- ② 自分の信念に生きる。魅
- ③ 生きるために食べるが、食べるために生きるのではない。(無始無終の生命のリレー)

【Dグループ】

- ① 更正とは「よみがえる」。
- ② 小さな実行を積むことで、人は小さな自信をもつ。
- ③ 「信ずる」とは、声をかけるから信じられる。





《お薦め書籍》

『松下幸之助に学んだ
人生で大事なこと』

上甲 晃 著



出版 致知出版社
頒価 一六二〇円(税込み)
ISBN 413-978-4800911919

※ 本日絶賛販売中

松下幸之助直氏の薫陶を受けた著者がその半生を振り返り、師に学んだ人生と仕事の極意を余すところなく記した実践録。その教えの真髄である「自主自立」を地でいくかのように独立し、始めた青年塾は二十余年。現在まで1700名以上の若者たちを育てるに至ります。そして喜寿を迎えたいま、新入社員時代は軽く受け止めていたという松下氏の言葉「素直」の二文字が人生最大のテーマに・・・。

《先哲に学ぶ生き方》

森信三 先生

「日の目」

人は一時期下積みになっても、それは将来の土台づくりであり、一時の左遷や冷遇は、次の飛躍への準備であり、忍耐力・持久力の涵養期として隠忍自重して、自らの与えられたポストにおいて、全力発揮を怠らなかつたら、いつか必ずや日の目を仰ぐ日のあることを確信して疑わないのでありまして、これが八十有余年の生涯を通じてのわたくしの確信して疑わなところあります。

森信三

「運命を創る一〇〇の金言」より

《人間学塾・中之島》

■ 基本カリキュラム

*日時 平成31年1月12日(第二土曜)

*場所 大阪大学中之島センター

10F 佐治敬三ホール

*講師 木南一志 先生

「学歴よりも本気歴」

1959年1月兵庫県生まれ。株式会社新宮運送代表取締役。『SDC運動』という、4000日間の無事故無違反を推進する循環型の運動を実施、「事故が起きても仕方がない」という考えを壊し、社員の自発的な努力の必要性を促している。本物と呼ばれるような企業を目指して、柔軟なスタンスで事業を推し進めている。

ご紹介くださいませ!!

●「聴講」へ

お知り合いの方々を、お誘いください。

聴講費 四、〇〇〇円(小冊子謹呈)

聴講後に入塾いただいた場合、聴講費は塾費より減額いたします。

●「入塾」へ

中途入塾を大歓迎しています。

年間塾費は、月割り(入塾月)にいたします。

【新入塾生ご紹介 12月】

陳 曉麗さん

〒540-0012 大阪市中央区

《大悟徹底》

寺田一清先生寄稿録

「松陰先生」至誠館」



朋友有吉さんと、晩秋の期に松陰神社を訪ねました。今年は松陰先生没後150年祭にあたり、神社境内に「至誠館」が建立されましたので、是非拝観したいと思いました。

まず、神殿参拝を恭しく拝礼致しましてその後、松陰先生の教訓入りのおみくじを求めましたところ「自ら昊天(天の神)に恥じず」とありました。それに添えて「独りを慎め天知る地知る我知る神知る」とあり何より自戒のことばと受け取りました。その後「至誠館」に入場拝観を致しました。松陰先生のご生涯が一堂にパネル展示され、分かりやすく大観できたことは何よりでした。なかでもとりわけ心引かれたのは「永訣の書」と呼ばれるものです。(処刑一週間前死を覚悟した松陰先生が父百合之介、叔父の玉本文之進、兄梅太郎への別れの言葉です。

「親思ふところにまさる親心

きょうの訪れ何ときくらむ」

という一首にひきつづき、「平生の学問浅薄にして出来申さず、非常の変に立ち至り申し候、嗚々ご愁傷も遊ばざるべく拝察仕り候」とありました。

「至誠館」を終えてよる、松陰先生の墓所に参上、松陰先生二十一回猛士の墓にぬかづきました。それより旧藩校の明倫小学校に辿りつきました。

明倫小学校では毎朝各学年各学期ごとの『素読読本』(松陰先生のことば)が作成されてあります。いまその内より最も感動の語録を掲げ、終わりたいと思います。

★今日より は幼心を打ち捨てて

人と成りにし道を踏めがし

★世の人は よしあしごとをいわばいえ

賤が誠は神ぞ知るらん

「一宮ますみ読書会」百会記念報誌集より抄録